

永平寺町ビジョンガイドブック

ととのうまち永平寺町

Eiheiji-Town Vision Guide Book

START!

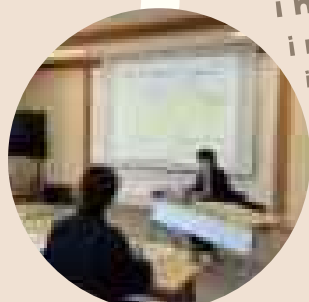
ととのうまち永平寺町

vol.02 が
できるまで



ビジョンガイドブックの作成開始。
カードゲームを通じ、まちづくり
の難しさと醍醐味を実感。

input
input
input
inp



永平寺町の地理や、住民、
歴史などを町役場の方から
教わった。



林 彩華さんから、役場事業を
ライフステージ毎に整理する
ことの大切さを学ぶ！

workshop



四季の森にて町役場の方々の
協力のもと、永平寺町の事業
をライフステージ毎に整理。

interview



各自が選んだ事業について、
町役場の方へのインタビュー
を通じ、その本質に迫る！



インタビューに向けて
重要となるポイントを学び、
記事にする事業を決定！

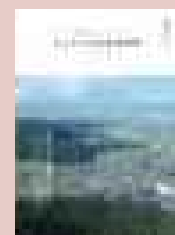
writing



インタビュー内容を簡潔に
まとめて記事化することの
難しさを痛感。



ビジョンガイドブック完成に
向けて全員で細かいところを
話し合う。



多くの方の協力で完成した
永平寺町の良さが詰まった1冊。
ぜひ読んでみてください！

finish!

人生100年時代の
ライフステージに寄りそう

永平寺町ビジョンガイドブック

福井県立大学と永平寺町が連携し開講する「永平寺町学」

後期 15 回の授業を通じて、16 名の大学 1 年生が、
地域づくりのプロから学び、地域に飛び込みました。

できあがったのが、「ととのうまち永平寺町」という、
永平寺町の新しくて懐かしいビジョンを掘り起こし紹介するこのガイドブック。

人と事業から学び、若き学生視点から、
永平寺町の暮らしの価値の発信に挑みました。

contents

- 04-09 人生 100 年時代のライフステージに寄りそう事業
- 10-15 学生たちが注目した事業の紹介
- 16 ビジョンガイドブックができるまで



はじめに

人が幸せに生きるためには良好な関係性が不可欠だ。

自分と自分との関係性、自分と他人との関係性、自分と自然との関係性。この 3 つの関係性が、バランスと調和をもって、ととのっているとき。人は、自然と調和し、ともに手を取り合いながら、自分らしく生きられる。

日本には、ことさら、永平寺町には、そんな「ととのう」という、懐かしくて未来的な幸福感があることを感じる。
“ととのうまち永平寺町”という地域ビジョンを放つまちであると。そして、その人々の幸福感ある暮らしを支える存在として役場がある。

しかし、役場が一体どのような事業を実施しているのか、また、自分たちの人生とどのように関わってくれているのか、全体像を伴って理解することは容易ではない。

そこで、昨年度に引き続き第二弾となる今回の永平寺町ビジョンガイドブックでは、鳥取県智頭町の総合計画での取り組みを studio-L の林 彩華 様から学ばせてもらい、永平寺町役場の実施する全 238 事業を、対象となる年代毎に整理し、町民のライフステージに寄り添う事業一覧として分かりやすく見える化することを試みた。

また、学生がその中で興味関心をもった事業について、永平寺町役場の担当職員の方々にインタビューを行い、15 の事業を紹介することにした。

この永平寺町ビジョンガイドブックが、役場事業と町民の皆さまとの幸せな関係性を考える、1 つのきっかけをお届けできましたら幸いです。

永平寺町役場事業

人生 100 年時代のライフステージに寄りそう事業

事業は全ての年代・町民に関わるものですが、主に対象となる年代を授業を通じて学生が想定し整理したものととなります。

健康

家族

仲間づくり

学び

仕事

環境整備

0歳

10歳

20歳

30歳

40歳

赤ちゃんの健やかな成長のために

- 乳幼児や妊産婦健康診断の推進
- 母子の健康作りの推進

学校生活をより安心して過ごせるために

- 各学校施設改修工事の実施
- 非構造部材耐震工事の実施
- 交通安全教育の実施
- 交通安全運動の推進
- 通学者への利用促進とバリアフリー化の促進

持続可能な環境づくりのために

- 学校・地域での環境教育の推進
- 周辺自然環境の保全

豊かなスポーツライフを実現するために

- スポーツ団体の育成やスポーツ指導者への支援

遊びと学びの出発点を作るために

- 幼児園、幼稚園と様々な地域住民や団体などとの交流
- 特色ある保育の取り組みの推進
- 親子体験学習機会の推進
- 読書の視野拡大のためのソフト事業（おはなし会の充実など）の実施

教育環境を向上させるために

- 学校・家庭・地域の連携
- ボランティア活動や社会参加の促進
- 適切な指導や助言などの相談連絡体制の整備
- 図書の充実

ふるさとへの愛着を育むために

- 「礼の心」を重んじた教育の充実
- 確かな学力の向上
- 豊かな心、ふるさとを愛する心の育成
- 地域に根ざした特色ある教育活動の展開
- 地域と進める体験活動の充実
- 家庭・地域・学校協議会の充実
- 学校開放日の設定
- 地域特有の歴史や文化の啓発活動の充実

異文化を学び交流するために

- 中学生語学研修事業の実施
- 留学生との交流事業の実施

助け合いの大切さを学ぶために

- 地域福祉を担う人材の確保、育成
- 教育の場での学習機会の提供
- 人権相談、人権尊重に関する学習や啓発、広報活動の充実

家族の居場所を確保するために

- 計画的な修繕と耐久性の向上に資する改善の実施
- 多世帯の同居および近居のための住宅リフォームや取得を支援
- 空き家利活用に対する支援
- 空き家バンク登録推進

子育てしやすい町を目指して

- 子育て支援センターのサービス充実
- 結婚、出産、子育て情報ネットワークの強化
- 若者の出会いの機会創出事業への支援
- 乳幼児医療費、妊婦健診の助成などの充実
- 助成制度の充実による子育て環境の整備
- 子育て世代への経済的支援や生活援助と保育サービスの拡充
- ひとり親家庭の経済的自立の支援
- 子育て悩み相談、啓発の充実
- 出産や育児に関する知識の普及、相談

安心して移住できるように

- IJUターン者への就業・就労に関する情報発信による支援
- IJUターンの情報発信と受け入れ環境の整備
- IJU ターン者の空き家住まい支援
- 地域おこし協力隊によるまちづくり事業の推進

男女共同の生活のために

- 家庭や地域での慣習の見直しと意識改革
- 政策や方針決定の場への女性の参画拡大
- 男女の仕事と家庭の両立支援
- 働く場における男女平等の実現

若者が地域で活躍するために

- 学生・若者まちづくり条例に基づくまちづくり事業の推進
- 地域活動やまちづくりに関する情報の提供
- 学生・若者が交流できる場の確保

働きやすい町を目指して

- 全指導員の資格取得支援
- 生涯学習に携わる人材の育成
- 生涯学習施設の整備、充実
- 教師の指導力向上支援事業の充実
- 町の歴史調査活動の実施
- 心の健康づくりへの支援、相談
- 心の健康に関する相談、情報提供
- 地域が支える心のバリアフリー活動の推進
- 社会活動への参加支援、雇用・就労支援
- グループホーム、就労支援施設などの支援
- 救急救命士の養成、育成強化
- 担い手農地集積高度化の促進
- 地産地消、学校給食への地場産作物の活用促進
- 林業担い手の確保
- 地場産材の利用促進など森林資源の活用
- 異業種交流の促進
- まちづくり会社（仮称）への支援
- 意欲ある人材の創業支援や起業の支援
- 起業支援ワンストップ相談窓口の配置
- インターチェンジ周辺の産業拠点の形成と振興
- 金融機関や企業と連携した施策の充実
- 広域連携や異業種連携イベントの開催

永平寺町に来てもらうために

- 魅力ある誘客戦略
- 広域連携による周遊観光の推進

永平寺町の魅力の発信・拡大のために

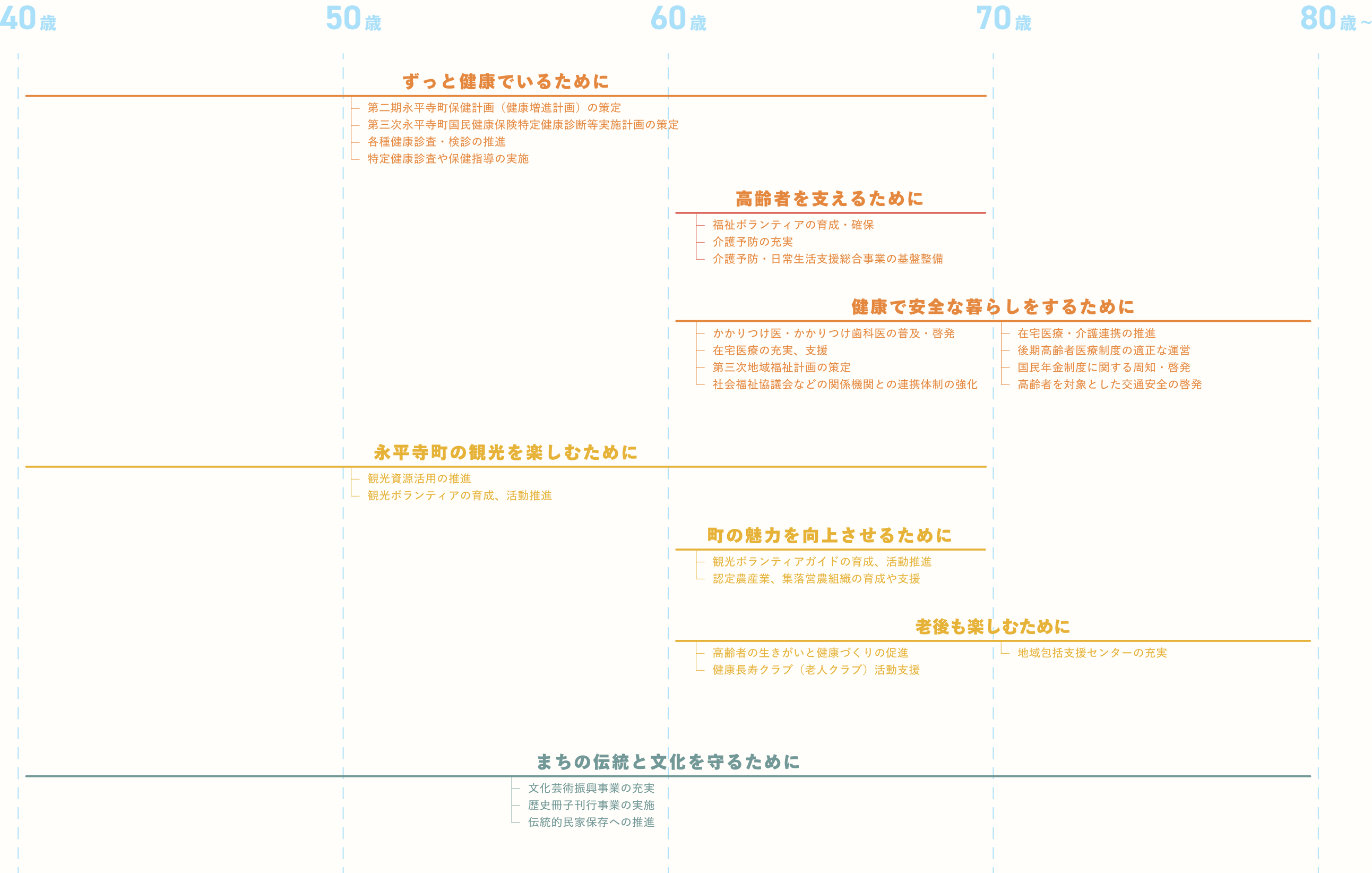
- 地域ブランド創造活動の推進
- 観光情報の発信・PR 事業の充実
- 振興作物の産地化・ブランド化
- 「郷土料理」や「伝統料理」による町の魅力の発信
- 商工会との連携による活性化
- 制度融資の適正化
- 地域の特産品の高度化・ブランド化
- 新商品開発事業の支援
- 特産品の販路拡大への支援
- 優良企業の誘致

永平寺町役場事業

人生 100 年時代のライフステージに寄りそう事業

事業は全ての年代・町民に関わるものですが、主に対象となる年代を授業を通じて学生が想定し整理したものとなります。

- 健康
- 家族
- 仲間づくり
- 学び
- 仕事
- 環境整備



永平寺町役場事業

人生 100 年時代のライフステージに寄りそう事業

全世代

事業は全ての年代・町民に関わるものですが、主に対象となる年代を授業を通じて学生が想定し整理したものととなります。

健康

家族

仲間づくり

学び

仕事

環境整備

福祉を充実させるために

- 生活支援体制整備事業の充実
- 地域支援事業の充実、強化
- 障害者（児）福祉計画・基本計画の推進
- 自立支援と地域生活支援の推進
- 安心できる生活環境づくりの推進
- 生活困窮者への支援

心と体の健康のために

- 「永平寺町健康づくり 11（いい）からだ条」の推進
- 保健センターの機能強化・充実
- 連携した健康づくりへの支援
- 救急、休日における医療体制の維持
- 支え合い活動や見守り活動の推進
- 医療費助成制度の充実
- 健康づくり、予防の啓発
- 健康診査等の受診率の向上対策、
後発医薬品の普及促進
- 国民健康保険事業の適正な運営

多文化共生のために

- 国際人養成事業（日本文化に精通し、
外国語を使える人材育成）の実施
- 外国人相談窓口の設置や行政情報の提供
- 町内在住外国人との交流

町民参加の まちづくりのために

- パブリックコメント制度などの充実
- 政策提案グループへの支援や協働の
まちづくりに関する情報の提供
- 地区振興連絡協議会の設立、支援
- すまいるミーティングなど広聴活動の拡充
- 各種計画立案への参画機会の拡大
- まちづくりの協働体制の強化

スポーツの発展を目指して

- 身近で気軽に楽しむことのできる
スポーツ教室や大会の開催
- 体育協会、体育振興会、加盟競技団体などへの支援
- 福井しあわせ元気国体・福井しあわせ元気大会の推進

文化を大切にするために

- 文化活動情報の提供
- 地域に根ざした文化活動の支援
- 歴史・文化遺産活用事業の実施

公共施設の充実を目指して

- 快適性や安全性に配慮した施設の整備
- 公民館機能の強化
- 施設の計画的な改修
- 効果的、効率的で
利用しやすい施設とするための管理運営
- 公園などの整備
- 統合施設の適正な処理体系の検討、整備
- 地域活動施設の整備、充実
- 公共施設の適正配置と有効利用・統合整備

情報による 地域活性化のために

- 利用者の利便性を高めるソフト整備
- 森林境界に関する情報の電子データ化
- 事務事業評価システムを活用した
事業の改善と効率化
- 高度情報処理システムの整備
- ICT 化の推進と活用
- 情報通信基盤の充実

安心して生活するために

- 危機管理体制の整備
- 自主防災組織の育成、充実
- 自主防災組織連絡協議会の確立
- 自主防災意識の高揚
- 防災講座の開催
- 防災拠点施設、避難所などの耐震化の推進
- 情報収集伝達体制の強化
- 防災資機材の充実、維持
- 治山・治水・砂防事業の推進
- 老朽管更新時における耐震化事業の推進

農林水産業の発展のために

- 農業生産基盤、土地基盤の整備、強化
- 農業水利施設の長寿命化
- 九頭竜川を活かしたイベントへの支援
- 鮎やサクラマスなどの繁殖力向上の支援

環境を守り続けるために

- 町民、事業者、行政の参加・協働による環境づくり
- サクラマスやホタルなどの生息環境の保全
- 不法投棄防止対策の推進
- 環境美化活動の推進
- ごみ減量化への取組みの充実
- 古紙回収の推進
- 分別品目拡大と徹底
- 再生可能エネルギー導入の促進
- 充電インフラ設備の増設
- 森林環境の保全

企業への支援や協力した まちづくりのために

- 里山と連携したパーキングエリアの整備
- イベントなどの連携強化による利用促進
- 利用促進 P R 活動の展開
- バス交通体系のネットワーク化への支援
- 民間委託、指定管理者制度の積極的導入

快適な移動のために

- インターチェンジへのアクセス道路の整備促進
- 生活道路の整備
- 道路・橋梁などの補修
- 歩道の整備
- 除雪体制の強化
- 新たな交通体系の導入の検討

限りある財源を 町民のために

- 収支均衡のとれた投資・財政計画などを示した
「経営戦略」の策定
- 包括的民間委託の検討
- 定期的な料金改定の検討
- 財政健全化へ向け公営企業会計への移行を推進
- 財政計画・行財政改革大綱実施計画に基づく
経費削減、自主財源の確保
- 財源の合理的・効率的な活用
- 地方公会計の財政運営への積極的活用
- ふるさと納税の推進など財源の確保

自慢できる街並みのために

- 景観条例による景観の保全・創出
- 町民主体の景観づくりへの支援
- 用途地域の見直し
- 地籍調査事業の推進
- 景観に配慮した住環境の整備

まちの情報共有のために

- 生涯学習だよりや公民館だよりを活用した
生涯学習講座などの情報発信
- 広報紙、ホームページ、フェイスブックなどの
掲載内容の充実
- 情報公開制度の適切な運用
- 的確な情報提供の実施

安全な住環境のために

- 道路施設の定期的な点検の実施
- 交通安全施設の整備と維持管理
- 地域ぐるみで連携した防犯体制の強化
- 防犯活動の啓発、充実
- 防犯施設の整備
- 快適で魅力ある良好な宅地開発の推進
- 住宅耐震化への支援
- 町民と関係機関との連携の強化
- あらゆる暴力の根絶
- 窓口サービスの充実

効果的な行政運営のために

- 総合振興計画を基本とする計画的な行政運営
- 事務事業の再編・整理、行政組織の再編
- 行政改革の推進
- 職員定員適正管理計画に基づく適正な人員配置
- 事務組合との行政事務の充実
- 周辺市町との広域連携の推進
- 窓口業務に対する職員の意識向上
- 人事評価システムの活用
- 職員研修の充実・強化と能力開発の推進

救急活動の質を上げるために

- A E D の普及啓発、救命講習会の充実
- 救急資器材の整備、充実強化
- 住宅用火災警報器の維持管理の啓発
- 消防団体制の確立、地域消防力の充実

永平寺町の取り組み 教えてください！

学生たちが注目した事業の紹介



地域性を活かした 特色ある保育の取り組み

特色ある保育の取り組みの推進

学び

子育て支援課 池端 時枝さん 山本 豊美さん

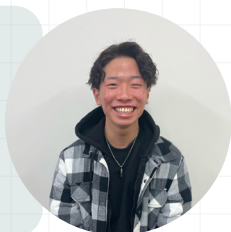
「園と家庭が協力して子育てをする」を目標としている永平寺町では、保育園と家庭の関係性がより親密なものとなるように役場が間に入り、お互いの意見を交換する役割を果たしている。なかでも「特色ある保育の推進」という政策に力を入れている。

例えば、地域の人に協力してもらい普段とは違う体験を行う「遊びの中で学べるクラブ活動」もこの政策によって生まれた活動の一つだ。こういった、町が一体となって政策に参加できるのが小さい町である永平寺町の魅力であるように感じた。

今後は園によって人数に偏りがあるため、その偏りをどのように是正するかが課題だという。

ここがすごい！

小さな町
永平寺町だからこそできる
オリジナル保育の推進



長谷川 知輝

親子の関わりを 地域活動によって深める

親子体験学習機会の推進

学び

子育て支援課 池端 時枝さん 山本 豊美さん

永平寺町では「親子体験学習機会の推進」を通して、幼稚園・保育園での保育参観や行事だけでなく親子での体験学習として調理実習等の様々な親子参加型の企画講座を開催している。参加された方々からは、「家庭でも実践したい」と好評のようだ。

担当の山本さんと池端さんは、「集団の中での子どもの成長を感じてほしい」と語る。山本さんは、数年前まで園長を務めていたため、実際に園を利用する親子と近い距離感でかかわってきた。最近は、コロナ禍での制限により開催が出来ていないイベントも多い。山本さんと池端さんは、「コロナ禍が収まったら異年齢での交流や行事、地域の方々が参加できるような楽しいイベントを開催したい」と笑顔で語った。

ここがすごい！

イベントに参加することで親子や地域との豊かなつながり
をつくることができる



山田 光莉

若者たちの第一歩

学生・若者が交流できる場の確保

仲間づくり

総合政策課

伊藤 修平さん

生涯学習課

小林 万誉さん

「学生・若者が交流できる場所の確保」。この政策は私たちにとって身近に感じるものだ。永平寺町では「新町ハウス」等の学生や若者が地域の方々と交流できる場所づくりや、まちづくりに興味を持った学生への支援、情報提供など幅広く行なっている。

昨年までは早稲田大学の学生らが永平寺町に訪問。地域資源などの現地調査を行い、歴史や文化、風景を活かしたまちの活性化を促す共同研究を行っていた。学生らの研究成果を文化財企画展で展示し、永平寺町の地域資源を再認識できる機会となったそうだ。そして現在、若者活動推進事業として「ワカマチプロジェクト」が進行中だ。永平寺町で何かしたいと考える人たちが集い、ワークショップを開催。今後の活動計画を立て、さらなる参加者を募り、実行に移し始める段階だそうだ。

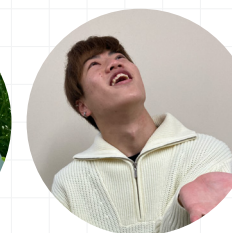
私たちは、この活動を通して輪が広がり、好循環が生まれると良いと感じた一方で、この政策のターゲットである若者に情報が伝わりにくいという問題があることもインタビューを通して痛感した。「私たち学生にできることは何なのか？」それは自分の思いや考えをアウトプットし、挑戦してみる、一歩踏み出してみる事なのではないだろうか。「永平寺町にいかに関心を持ってもらえるか」と語る伊藤さんたちの真剣な眼差しは、永平寺町に対する愛情と情熱が込められていた。若者や学生の第一歩が永平寺町の第一歩につながることを願いたい。

ここがすごい！

永平寺町の愛好家が集い、
若者を中心にプロジェクトが
進行しているところ



大嶋 咲貴



伊藤 瑠利

ずっと住みやすい町であるために

学校・地域での環境教育の推進

環境整備

住民税務課

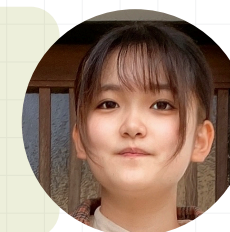
酒本 和浩さん

「学校・地域での環境教育の推進」の政策では、3歳から高校生まで誰でも参加できる「こどもエコクラブ」の実装校へ支援をしている。「こどもエコクラブ」では、植物の育成や川の調査を行っており、実施してから役場へ「以前より環境について考えるようになった」との声が届いたそうだ。酒本さんは今後の活動として、生ごみを減らすため、自宅で手軽にできるダンボールコンポストについて、地域で周知する場を作りたいと考えている。

子供たちにどう成長してほしいか、という質問に酒本さんは、「環境について大人が教えるだけでなく、子どもたちが学びから新しい取り組みにつなげることで、住みやすい町になると嬉しい」と話していた。

ここがすごい！

学校で植物や魚を育て、
楽しく環境について学ぶ
ことができる。



雨宮 ゆめ

常に親子ファーストを考えて

子育て支援センターのサービスの充実

家族

子育て支援課

池端 時枝さん 山本 豊美さん

永平寺町の子育て支援センターは町内に3か所あり、様々な取り組みを行っています。育児に関する相談はもちろん、専門家を招いての講座や、季節ごとのイベントなど、親子で一緒にできる企画を考えながら運営しています。なかでも、講座は、子どもの歯に関するものやベビーマッサージなど、子どもの為になる内容が人気だそうです。

今後、コロナが落ち着いたら、町内3施設での交流、例えば、合同の運動会など、色んな所との交流をしていきたいそう。支援センターでのイベントや相談会は、『広報永平寺』の町民カレンダーに詳しく記載されており、いつ何をしているのかも見やすく書かれています。興味のある方はぜひ読んでみて下さい。

ここがすごい！

来てくださる方に
寄り添って考えられた
取り組みしかないと
感じた点です。



西村 尚華

資源を生かす 時代に合わせた観光のカタチ

魅力ある誘客戦略

仕事

商工観光課 渡辺 淳基さん

観光の分散や多角化による観光客の減少から、「魅力ある誘客戦略」を進めている永平寺町。永平寺や禅、九頭竜川など、この町ならではの観光資源を中心とした観光政策を行っている。例えば、海外ではZEN（禅）への関心が高く、担当者の渡辺さんも実際に海外で宣伝活動をした際に、その人気を実感したそう。コロナ禍で衰退していた観光もイベントの実施や町内事業者による新施設の効果もあり、現在では新型コロナウイルス感染拡大前の観光客の約半数が戻ってきた。コロナ前には少なかった若者も多く訪れている。

今後は事業ごとにもっと個性を出していく必要があるそう。「永平寺町の観光を盛り上げるために、事業者のサポートを大切にしていきたい」と渡辺さんは語った。

選りすぐりの“永平寺町らしさ” 「SHOJIN」

地域の特産品の高度化・ブランド化

仕事

商工観光課 吉田 朱里さん

永平寺町では2017年から「SHOJIN」という特産品をブランド化する取り組みが行われており、現在では50品目以上の特産物が認定されている。認定には伝統やネーミング、将来性などの審査があり、永平寺町らしさを大切に展開している。

永平寺町役場では永平寺に来られる方をメインとした40代以上の層をターゲットにPR活動を展開。さらに最新の認定品である「だるまぷりん」をきっかけに、若い世代にもこのブランドを広めていきたいと考えている。贈答品やふるさと納税の返礼品として商品のパッケージを統一して展開したり、2022年9月にはECサイトを開設したりと、新たな取り組みが行われている「SHOJIN」に期待したい。

ここがすごい！

「SHOJIN」のロゴには
「心」の漢字が描かれている。
これは禅のまちである
永平寺町を表すことに加え、
作り手の心も含まれているそう。



馬込 彩加

ここがすごい！

観光の軸を作り、
そこからまた
新たなものへ繋ぐことで
より魅力ある町に



柿木 玲香

「企業誘致」という政策にどのような幸せがあるのか。

優良企業の誘致

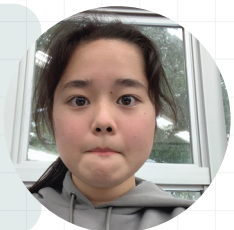
仕事

総合政策課 伊藤 聡一さん

永平寺町は子育ては手厚いが、就職できる企業が少なく、若者が町外に出ていってしまう事が増えている。そこで「優良企業誘致」を進めることにより、若者が町外に出ずとも永平寺町内で仕事ができる環境づくりを整えている。例えば、永平寺町に町外の企業が進出する際、「永平寺町民を数名雇用すること」を条件に、さまざまな支援が受けられる制度が存在する。企業にとっては支援を受けられ、永平寺町に住む人たちは新たな就職先が増えるため、それぞれにとってメリットがあるといえる。「優良企業誘致」には、力を入れており不動産業の方々に情報収集を行ったりインフラ整備を行うなど永平寺町の地域経済の活性化に尽力している。今後、これらの制度で、若者の定住につなげたいと考えている。

ここがすごい！

支援制度の条件の中に
永平寺町の人を
何人か雇うというところ



樋園 千波

町の魅力を すべてのひとに

観光ボランティアガイドの育成、活動推進

仲間づくり

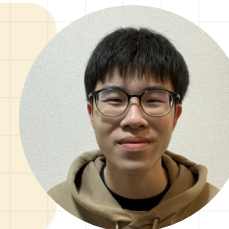
商工観光課 鰐淵 千紗さん

今回は「観光ボランティアガイドの育成、活動推進」についてお話を伺った。この政策は、永平寺町を訪れる観光客に町の魅力をより深く感じていただくことを目的として、2006年から始まったものである。観光ボランティアの利用者は年々増加し、2019年度は約5700人の観光客がガイドと町内各地の名所を巡った。また、地元の語り部としての役割も担っており、対観光客だけではなく地元での出張講座などの活動も行っている。

町もこの事業を支援するうえで「町の子どもたちに地元の魅力を知ってもらうことこそ重要だ」と考えている。子どもたちの中から地域に愛着を持った人物が現れれば、観光ボランティア活動はより意味のあるものとなるだろう。

ここがすごい！

地元の若い世代に、
自分の町を
誇りに思ってもらいたい。



角谷 龍之介

ここがすごい！

「近場」だけど「近くない」、
非日常を味わえる町。



福井 砂緒

文化と芸術で繋ぐ、あたたかな人の輪

文化芸術振興事業の充実

学び

生涯学習課 伊藤 由香さん

永平寺町では、文化・芸術活動を通して地域の人々が繋がる機会を設けている。公民館では毎日、文化講座を実施。更に、月に1,2回、町内でイベントを開催するなど、季節や、参加者の年代に合わせた企画を実施している。これまでに、外国人アーティストを永平寺町に招き、町民と共に芸術を楽しむイベントを開催。ほかにも、朗読会や、コンサートなどが開かれている。

イベントの企画や運営に携わる伊藤さんは、「このようなイベントを通して、永平寺町に関わる方々の輪が広がると同時に、深くなってほしい。また、繋がる過程を大切に、共に過ごすことを楽しんでいただきたい。」と語った。

ここがすごい！

永平寺町の
あたたかな雰囲気は、
あたたかな繋がりから。



中野 紗良

講話を通した交通事故の抑制

高齢者を対象とした交通安全の啓発

健康

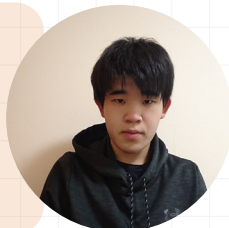
防災安全課 戸枝 宏介さん

永平寺町では、町内の高齢者サロンからの依頼を受けて、交通安全に関する話をしている。交通事故の現状を説明すると、高齢者の方々は自分事のように話を聞いてくださるそうだ。福井県全体では交通事故の件数は減っているが、高齢者が負傷したり、犠牲になったりする割合は高い。そのため、「普段からの反射材を付けたり、暗いときは目立つ服装をするなど、自分の身は自分で守るということを伝えていきます」と戸枝さんは語る。

今後は、高齢者だけでなく幅広い世代に交通安全を考えてもらう機会を増やしたいそうだ。一人ひとりが交通事故の加害者や被害者にならないという意識を持つことが出来れば、それだけでも交通事故は減っていくだろう。

ここがすごい！

交通事故は
服装を意識するなど
小さいことからでも
十分対策することができる



笠塚 暁貴

高齢者でも安心して暮らすための努力

地域包括支援センターの充実

仲間づくり

福祉保健課 中村 憲二さん 竹内 宏行さん

「地域包括支援センター」は、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活するために、介護・福祉・医療に関する相談窓口。「介護予防」も一つの目標として掲げ、今後介護が必要な人が少しでも減るよう高齢者も気軽に運動できる場を設けている。電話相談は無料。主任ケアマネジャー、社会福祉士、保健師が民生委員等と連携し、その人に合ったマネジメントをすることができる。高齢者虐待の早期発見、家族の心配事、介護保険サービス、介護の方法や介護用品、生活や医療についてなどどんな相談でも気軽に相談できるのは心強い。これからの目標として、緊急時でも素早く対応できるよう、さまざまな分野とのつながりを意識していくそうだ。

ここがすごい！

臨機応変に対応できるように
月に数回そのための会議が
行われている。



吉川 蒼汰

永平寺町における在宅医療

在宅医療・介護連携の推進

健康

福祉保健課 中村 憲二さん、竹内 宏行さん

「在宅医療・介護連携の推進」は自分らしい人生を送ることを目標としている政策である。永平寺町では 2019 年に福井大学病院と連携して業務を行う町立在宅訪問診療所を開設し、住み慣れた地域でかかりつけ医が訪問する在宅医療を作り出した。高齢者の方に「どこで最期を迎えたいか」とアンケートをとった結果、約6割の方が自宅と答えたそうだ。

超高齢化社会から超超高齢化社会へと変わっていく中で、在宅医療・介護の重要性はますます高くなっていく。「在宅医療は家族により多くの負担をかけることになる。自分らしい人生を送るためにも普段から意識して入院・外来・在宅医療を適正に選択することが大事だ」と担当の竹内さんは語った。

ここがすごい！

住み慣れた地域で
自分らしい人生を
最期まで送ることができる



田尻 大空

永平寺町のミライと老後

在宅医療の充実、支援

健康

福祉課 中村 憲二さん 竹内 宏行さん

永平寺町では「どこで最期を迎えたいか」という問いに対して、“自宅”と答える町民が多かったそうだ。一番安心できて落ち着く自宅で過ごしたいという思いは理解できる。しかし、同居する家族はどうだろうか。仕事や学校で忙しいうえに介護もしないといけなくなると、現代社会ではそれは大きな負担になる。そこで町では3年前から「在宅医療」の推進をスタートした。在宅医療は、自宅にいながら医者や介護士をはじめとするさまざまな業種のプロが連携してサポートを行ってくれる。さらに、病院に入院するよりも費用を抑えることができるため経済的にも優しい支援となっている。

ここがすごい！

町と連携した
自宅で行える医療サポート



奥 柚葉